

# コミュニケーション能力の育成を目指す授業 — 基本文（文型・文法）の定着から —

日 臺 滋 之

（東京学芸大学附属世田谷中学校）

## 1. はじめに

コミュニケーション能力の育成を目指す授業においては、コミュニケーション活動を支えるうえで基礎的な文型、文法の練習はきわめて大切なことと思う。実践例も示しながら考えてみたい。

## 2. コミュニケーション能力を育成するために — 教科書構成を踏まえた段階的な指導

コミュニケーション活動にはいくつかの段階があると思う。第一段階は、コミュニケーション活動の基礎をなす語彙、文法、文型の学習であり、この型を身につけるいわゆる機械的な練習（mechanical drills）が必要となる。この機械的な練習を経て、次に友だちと会話し、情報のやり取りをするなど実際に使ってみる練習（meaningful drills）に繋がり、最終段階の練習（communicative drills）へと発展していくのではないかと思う。

NEW CROWN English Series（以下、NC）では、各 section に基礎・基本に焦点を当てた CHECK IT が設けられている。CHECK IT は文型や文法事項の導入として使用され、導入後は練習として活用することができる。この練習を受けて、各課の終わりには、section 対応の USE IT が設けられている。この USE IT では、CHECK IT の練習で学習した言語材料を用いて、具体的な場面や状況で情報のやり取りを行う活動が用意されている。さらに、USE IT を受けて、DO IT の活動が用意されている。この活動は英語を使ってコミュニケーション活動を行う段階であり、コミュニケーション能力を鍛える活動が準備されている。NCには、次図に示すように段階を追ってコミュニケーション活動を指導する

配慮がなされている。

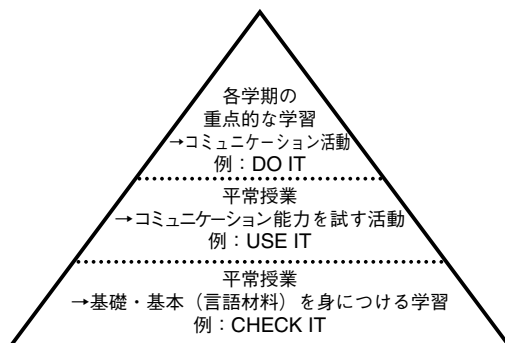


図 CHECK IT から USE IT, DO IT への段階的指導

## 3. CHECK IT から USE IT, そして DO IT への具体的な指導方法

NCの5課では、登場人物の久美が、樹木医になりたいという将来の夢についてスピーチをし、不定詞を学習する。この課を例に一連の指導過程を追う。

### (1) CHECK IT (NC2, L5, § 1)

以下に教室で行う新出文法事項の導入と練習、そして文法のまとめまでを示す。指導書付属の音声CDを使用しないで、教師が行う指導例である。

#### ① 聞いてみよう



・教師の英語を聞かせ、どの絵について説明しているか聞き取らす。

T: I'm going to tell you three different sentences.  
Which sentence describes Picture A? Which sentence describes Picture B? Which

sentence describes Picture C? Write the number of each sentence in the bracket for each picture.

Point, I want to travel around the world.

No. 1, I want to speak Spanish.

No. 2, I want to write a book.

No. 3, I want to live by the sea.

・答え合わせと説明

T: Can I have the answer for Picture A, Ken? (S: One.) Right. Can I have the answer for Picture B, Kumi? (S: No. 3.) . That's right. (Cの絵についても答えを確認。)

T: A「私はスペイン語を話したい」と言うときには、want to speak を使 って、I want to speak Spanish. と言う。B「私は海のそばに住みたい」と言うときには、want to live を使って、I want to live by the sea. と言う。(Cも同様に確認。)

②話してみよう

T: This time, please repeat the sentences after me. (Point の絵を指し) I want to travel around the world. Everyone. (Everyone. の合図で、生徒は教師の後について sentence を繰り返す。)(Aの絵を指しながら) I want to speak Spanish. Everyone. (S: I want to speak Spanish.) (B, Cの絵についても同様に言う。)

T: This time I'm going to give you some cues. Make sentences. (教師の cue を聞いて、イラストの描写をする。教師と生徒の発話を示す。)

T: (Point の絵を指し) "travel around the world". Everyone, make a sentence. (S: I want to travel around the world.)

T: (A の絵を指し) "speak Spanish". Everyone, make a sentence. (S: I want to speak Spanish.) Yuki. (個人を指名。指名された生徒は sentence を言う。) Everyone. (Everyone. と言われたら生徒全員で sentence を復唱。) <以下省略> 最後に、教師はそれぞれの絵を指し、生徒だけで言わせる。教師は cue を言わない。

・巻末の「文法のまとめ」を参考に、要点を板書する。

(2) USE IT

Section 1 を受け、USE IT では、下記のように教科書巻末付録の「職業」(語彙一覧)も参考に、各自の将来の夢を友だちと会話する class work が用意されている。この情報のやり取りを大切にしたい。



USE IT は CHECK IT の活動後に、行ってもよいし、次の時間に前時の復習として扱うこともできる。

- ・まず、付録の「職業」の単語の発音練習を行う。
- ・次に、将来、生徒がつきたいと思う職業を選択させる。
- ・例の対話文を使用し、友だちと対話させる。このとき、スピーディーに行うためにも制限時間を設ける。日本語を使用しないことにも留意させる。I beg your pardon?やHow do you spell actor?などの表現も練習し、必要に応じて使用させたい。

(3) DO IT

DO IT では、本文や、雛形のスピーチを参考に自分の将来の夢を書くタスクがあり、TRY では、実際にスピーチを行うタスクも用意されている。USE IT をさらに推し進めたコミュニケーション活動といえる。

年間指導計画に、2学期の重点活動として、実際にスピーチを行い、評価する活動として位置づけておくことが大切であり、さもないと時間の都合で生徒にチャレンジさせることができないなどということにもなりかねない。原稿を読むのではなく、暗記して言えるようになるまで練習させたいものである。

4. おわりに

コミュニケーション能力の育成を考えると、CHECK IT から USE IT, そして DO IT への一連の指導を意識して授業に向かいたい。